

2006年 8月 10日福岡発

8月 11日ウルムチ

8月 12日ホータン 21日まで調査

8月 22日ウルムチ

8月 23日福岡着

【ウイグル医学】アッキサル、アクケサル（白い病気）、日本でしろなまず（尋常性白斑）といわれる色素が抜けて白くなる皮膚病が多い。ホータンは乾燥して、冷たいものをほしがる、カン、バルガン、サプラ、サルダのなかの、粘液質が多い。太っている、ゆっくりする、よく寝る人の特徴。子供に増えてきた。氷をほしがる、肉を食べない、昔よりこの病気は増えてきた、田舎の子供が多い。

治療は飲み薬、塗り薬がある。栄養不良のこども、羊の肉を食べない、バルガンになる、経済的に肉を食べられない子どももいる。治療は早くて3-6ヶ月、大人は難しい。ストレスではない、4歳の子供にも、女性にも多い。

寄生虫がいると栄養不良、結核がおおくなる、空気が汚いから喘息が多い、呼吸器、脳血管の病気も多い。お金がある人は肉を食べ過ぎる、肥満が多い、経済格差が大きい。医療保険の70%は政府が払う。保険料は20元（1年間）で2年前にできた。

【イマーム・アシム・マザール】5-6月の木曜日に人が多い、6、7000人の人が集まる。ヤルカンドからの参拝者に話を聞く、農業をしている、足が痛いと言ったホータンのウイグル医学の病院に来た、64歳、よくなるようにお祈りにも来た。ほかのマザールには行ったことがない。ここは有名なマザールだから、はじめて家族で来た。心臓が悪い。元気だったらまた来たい。毎日お祈りはする。

ホータン県などから、30人くらい来ていたが、ほとんど女性。腰と手足が痛い人が多い。砂漠の砂の中に入れる。少しよくなった。バザールで店を開いて、去年、すごく寒くなったから手足が痛くなった、日に当たらない店で雑貨店をしていて、からだが悪くなった、商売はよい、50歳、ほかのマザールには行ったことがない。ウイグル医学の薬は安く、みなよく使っている。西欧薬は高い、このマザールは有名でホータンに近い。毎年1回は来る。他の人はカラカシュ、ロプなどからきている。団体ではない。

病気にならない、悪いことがおきないため、モスクの木を燃やしている。イスラムの信仰ではない、小さいときは母がよく木を燃やした、イスラム以前の習慣であり、

日本の線香と同じ。

カーガリックからの70歳の高齢の女性、からだのあちこちが悪い、耳が遠い。仕事はしていない、腰が痛い、一人暮らし、収入がないのでお金は隣の人が世話をしている。政府から150元の補助がある。

カシュガルからの中年の女性。アップクホージャはカシュガルでは人気がない、漢族に嫁がせたから。40年の戦いでイスラムにホータンは改宗した。ホータンの40%の女性は家にいて外に出ないで日に当たらない、からだが悪くなる。お祈りに来たしるしに、布を置いていく、白いのは男、旅行でカシュガルからホータンに来た、ホータンは昔の習慣が残っている。砂漠の静けさの中にゆっくりと、身を委ねる、何の音もしないのがいい。

【ウイグル医学診療所】まず天にお祈りして、薬を与える。マザールにいて天にお祈りするのはよい、トイレでのろいをかけるのはだめ、ピリ・フォン、バクシはだめ。イマームアシムにひざが痛いのを祈るのはよい。からだの病気、腰が痛い、慢性病はマザールでもよい、バクシは効果がない。精神病はよいかもしれない。ジンはいろいろな種類がある、漢族のジン、ウイグル族のジンもある。西欧医学で直らないからウイグル医学に来る。外科的手術はウイグル医学はしない、薬は自然のものを使うから、長期でも安全。西欧薬の副作用を心配して、最初からここに来る人もある。

息子、娘もウイグル医学の学校に行っている。5代続けて医者、ヘメルワルワイという心臓の薬を作った。心筋梗塞のくすりで心臓が弱い人、不整脈によい。食べ物が変わって心臓の病気が増えてきている。かゆくなったとき、牛肉、ゴシキルダ、卵、辛いもの、たまねぎ、長ネギなど食べるとよくない。薬を与えるとき、食事の注意をする。肉を食べ過ぎると血に脂肪が多くなる、化学肥料、農薬をつかうとガン、婦人のガンが増える。日本では化学肥料を使わないと聞いている。中国では人口が増えているから化学肥料を使わないとやっていけない。

1990年にウイグル医学が認められた。政府公認の医者はホータンで3人、他は薬屋。娘はトルコで中医学をしている、中医学とは理論と治療方法が違う、60%の薬は同じだが使い方が違う、ホータン地区病院には中医学がある。トルコではウイグル医学はわからない。イラン、パキスタン、インドではわかる。「医学大全」の文献はイランで手に入れた。「治療方法」の文献はパキスタンで、ウルドゥ語で書かれてある。ウイグル医学はアーユルベータとは少し違う。体質によって治療方法が違う。ウイグル医学

ではお酒は飲まないほうがよい、タバコはすこしならよい。髪は遺伝、食べ物で鉄分が少ないと白くなる。髭と髪はホルモンが違う。この年になったらひげを伸ばすのは普通。

【ウイグル医学高等専門学校】4年制。学年400人、ウイグル医学、薬、看護の学科。学生の90%はウイグル人、あとはカザフなど。年間3800元の授業料。60%の患者はほかの県からくる、新疆医科大学が1番良い、ここは2番目、直属病院で臨床の授業をする。

1990年設立、ウイグル医学が公認、ウイグル医学の文献はウイグル語がほとんど、これを中国語に翻訳して、中国人も学校に来るようにする。学校の近くにも薬屋、ざくろのジュースは血液の量が増える、パキスタンからの薬も糖尿病のお茶もある。

【ウイグル医学医院】心臓の病気、高血圧で、カシュガルのユプル県からはじめて来た。血圧を下げる薬を飲んでいる。西欧医学の薬はすぐ血圧が下がるが、やめるとまた上がる、ウイグル医学はそのようなことがない、この医院は人から聞いた、種を売る仕事、1ヶ月入院、よくなった、走ると息苦しくなったが、いまはない。肉は好きだったが、肉は食べないほうがよいといわれた、肉のスープもだめ。

ホータン市内から、39歳、心臓がわるい、この医院は3回目、西欧医学の病院はいかない、薬の副作用が心配、リウマチの治療中、胃が悪く、呼吸困難になった。教師をしていた、今は退職、

入院費用1日15-25元、西欧医学は1ヶ月1万元、実習生もいる、脳血管科には、医者5人、看護婦5人（ウイグルでも医者の数に比して看護婦が少ない、それは入院患者の身の回りの世話は付き添いの家族がしているからである。）ケリア県からきた、慢性的な心臓病、最初は西欧医学、農業、42歳、心筋梗塞。

頭が痛い、手足がしびれる、3ヶ月続いた。中学生である。58日間治療、頭の痛みは取れたが足が動かない。ロブ県から、だんだんそのようになった、西欧医学では精神の病気だから、そちらに行きなさいといわれた、学校で突然手足が硬くなった、お姉さんが大学の入試のときになった。

婦人科はがん患者が多い、ホータンは病院が多い、チラから来た、今12歳で、9歳からしろなまず、塗薬、飲み薬を使っている、冷たいものを食べたのがよくなかった、インスタント食品も悪い、学校の友達にもいる、皮膚科の80%はしろなまずの患者。

ヤルカンドからの患者、西欧医学にも行ったが効果がない、アトピーがひどい、今は野菜のスープを食べている、どのような原因かわからない、ジンが原因か、バクシにも行ってみた、16歳。

しるなまず、アルタイから、カザフは肉を食べるからからだは熱い、この医院はほかの人から聞いた、アルタイの病院では治療できない、中医学でもよくなる、役人、肉は嫌い、自分でもわからない。

しるなまずの治療に政府も金を出している。製剤室がある、新疆でウイグル医学 42 医院、そのうち 4 医院が製剤室をもっている。この製剤室のくすりはホータンでしか使用できない、カシュガルでもだめ、ウイグル医学をどのように管理するか政府にも方針がない、中医学と同じ範疇に入れている。

ウイグル医学の薬屋、毎日 100 元の売り上げ、ホータン、雲南、インドから材料を持ってくる。学校卒業して職がないので薬屋をはじめた、資金は父から借りた、薬の卸売り。薬屋も、2年前から、許可証をもてなかった人は3ヶ月学校で勉強した後、薬品経営許可証をもらう。

【ピリ・フォン】 貧しい農民はピリを、金持ちはマシュラップをする、貧しい人は見ることもできない。イーシャンがマシュラップの歌を歌う、イマームにイーシャンは対抗する。ルクメットの歌をはじめ、みんなは感動して、踊る、泣き叫ぶ、そのようなことに対して、アホンは天を、フダーを忘れてはだめだという。今でもいる、歌の専門家、イランから伝わった、シーアンマザップ、スフィーと同じ。

1週間に1回する、治療するようなピリは政府から禁止されている。1949年以前、国民党の時代、小学生で小さいころから楽器が好き、小さいときはこの村で毎日ピリをやっていた、それでダップが好きになった。共産党はピリをしてもよいといったが、あとでだめといった。しかし、社会が混乱し、病院もない、病気も増えたので、また、してもよいとなった。精神的な病気、身体的な病気を昔の明かりたて、動物の脂、を使って、バクシが判定する。ジンの種類がわかる。手足が痛い、頭が痛いについては儀礼のやり方が違う、動物を殺し、カン（血）が流れる、5回と7回にわけ。重たい病気はピリ・フォンの踊りや唄の回数を7回（一回が1時間）する。形態的、身体的な病気はしない。3種類の病気—手足が痛い、精神的、からだの臓器が痛い。ダップ—ヤギの皮で作る。人民公社の時代は、病院がない、県にひとつだけだった。昼はだめだが、夜はしてよい。ウイグル医学も少ない。大躍進の時代、県の病院はおおき

なくなったが、治らない病気の人は来た。文化大革命の時代、ピリ・フォンはすべて禁止、終わってからまたはじめた、76年に。1月に1回、夜にすることが多い。お金と食事をもらう、人によってお金が違う、200、300元から1000元、バクシは30元、ダップは20元、6人ダップと1人はバクシ。今多い病気は、手足が痛い、前立腺などはじめは西欧医学の病院に行く、うまくいかないとき、副作用などのときはバクシにくる。失神することは今でもある。本当に病気は治る、カラカシュにバクシは3人いる。イーシャンは泣く、ピルは笑う。マシュラップもする。

【ウイグル医学民間診療所】ウイグル医学の現状は発展しているが、ニセ医者が増えている。法律で禁止してはいるが、手が回らない。くすりの作り方も知らないのにバザールで本物に似せて売っている。ウイグル医学で金儲けができる時代になった。父もウイグル医学の医者。12歳から修行、学校の勉強しながら医学の勉強。父から注意されたことは、はじめから終わりまで勉強。とにかく全部勉強。医者になるについて特別なことは教えられていない。30歳で独立。そのとき中国になっていた。

からだのあちこちが痛い患者がくる。軟骨が減る。ホータンで16人が今有名になっている医者。くすりの説明書をみないとわからない医者も多い。人民公社の時代、ウイグル医学は禁止、迷信と同じ、西欧医学医院の中で、中医学のなかに入れられていた。人民公社の時代は他の仕事、6年間、衣服を作っていた。文化大革命のあとでウイグル医学を再開することをできた。80袋屋、セキサンハルタ、言いやすい、特別な意味はない、ラジという言い方もある、衛生的でない。ホータンではセキサンハルタの言葉はない。ウルムチの人が作った、医者ではないという意味もある。今でも田舎のバザールにいる。

西欧医学は別のこと、無関係、結合してはいけない、西欧医学は体質を考えていない、西欧医学の薬は早く効くが、副作用が多い。ウイグル医学は遅いが、安全。中医学は「冷熱」の考え方が違う、植物の部位の使い方も違う、木、火、土、金、水の元素も違う。マザールにいても病気は治らない、バクシも関係ない、イスラムとも関係ない。ウイグル医学はイスラム伝来とは違う、2500年前、ギリシャのヒポクラテスの時代から存在する。アラブ語、ウルドゥ語で印刷した医学文献が多い。

郷病院は看護師が4人、医者3人（衛生士）、患者はリユーマチが多い、人口5000人、8年勤めている、ホータン衛生学校卒業、検査の機械がたりない、レントゲン、血液の検査もできない、重い病気はグマ県病院におくる、（中国語で、一般に医者は医

生、イシェン、高等医学教育を受けたもの、医師、中等学校は医士、看護師は フシ)

【コクマルムの木曜のお祭り】7月、8月に行われる。泣きながらお祈りしている。ザカート(喜捨)を求める人がずらりと並んでいる。子どもたちも飴玉を与えている。これは30個1元位で買え、飴玉はさらにお金と交換される。ザカートにおつりくれる人もいる。旅行とお祈りをおかねて遠くからくる。2、3年に1度。近い村の人は毎週、モスクへは毎日。カラカシュから、悪いことがないように、元気であるようお祈りした。サパイを持っている、タスピ(イスラムの数珠)、カシュガルからきた、若い人は誰のマザールかわからない、ハネレック郷からの80歳、お祈りしてドアを開けたら、緑の蛇がいた洞窟への入場料2元、今日は多くの人に来て、待ち時間がある。

【計画生育管理人】18歳で結婚、同じ村、相手は自分でさがして。しんせき。母どうしが異母きょうだい、子供は3人、ブシュクは赤ん坊が首が挟まって死んだことがあるから、使わない。シュマックも使わない、この子はトイレで産んだ、自分はトータニセだが、衛生院で出産、今は座産をしない、アットイ、名前をつける儀礼、男はハットントイという。チャイー相談という意味、グルコイシという女へおみやげ、衣服を持っていく、男へはない、結婚式のあとで男へ与える。2歳まで母乳で育てる。おしめはない。赤ちゃんは今風邪をひいている。上の子は亡くなった。婦人連合会の主任をしている。マザールは行かない。子供は多いと大変。5人ほしいという人はいる。この村では子供の数はすべて管理している。3人超えると手術する。生活が大変だから子供が少ないのもよいと思うようになった。

【イマーム・アスカル・マザール】モスクの規則、法律で認められた宗教活動しかできない、モスク以外で宗教活動をしたらいけない、イマームなどは資格が必要、自分の村のモスクで祈るだけ。礼拝者が置いていく衣服の切れ端、数珠、石、アスカルへのおみやげ、女性のスカーフが多い。女性の礼拝者が多い。このお土産を盗んでいったら悪いことがおきる、旗はイスラムのしるし。イーシャンは政府が禁止している。

【公立ウイグル医学医院】この病院で作った薬、2005年ウイグル医学専門学校卒業の医者、イリの出身、専門学校卒業して研修中、イリに帰るつもり、親戚にこの医学をしている人がいた。糖尿病のくすりが多くある、この病気は増えている、よく効く薬、遺伝と肉など多く食べるようになった。患者の体質によって薬が違う、胃が強い人は「熱い」、腎臓が強い人は「冷たい」、他に民間の病院はある。病室が足りないから廊下にベッドを出して入院している。脳梗塞、薬を飲んで話ができるようになった、

67歳、カラカシュ、農業、別の病院のスキャンの写真を持ってきた。

【西欧医学医院】 新疆医科大学の同級生がいる。ウイグル医学はわからない、西欧医学で大体治療できる。内科で西欧医学では治せないのがある。地区医院は値段が高い、西欧医学の医者はホータンで600人、5年前まで中医学は地区医院だけにあった。この医院は一日で50-60人の患者がくる。民間の病院が少ない。地区病院は漢人が多く、言葉があまり通じない、父が漢人、母がウイグル人。自分で薬を買って直す人が多いが、最近、病院に来る人が多い。いまは民間の病院が増えている、上階は入院室。

心筋梗塞でロプ県から3日間入院、よくなっている、ウイグル医学は行ったことがない、56歳。腸炎で入院、市内から、玉石を売る商売、儲かるが玉石が少ない、川で石が少ない、上海で売ると高い。1000元から200元前金を払って入院、民間の病院は保険はない、でも民間が安い、テレビで薬、病院のCMが多い。

【新しい民間西欧医学の医院】 患者はまだ少ない、この医院にはウイグル人のための通訳がいる、西欧医学は漢人が多い、だんだんとウイグル人の医者になるとよくなる。地区医院を退職した医者が多い。腎臓結石の治療、超音波で破壊、3日ですてしまう、2000元、手術より簡単。脳、腎臓の治療は民間がよい、上海の資本家を作った全国にある系列式の医院、民間の医院は税金を払う、日本の優秀な検査器機をそろえた医院をつくれればもうかる。かぜで入院しても600元と高い。美容外科はホータンにはない、ウイグル人は整形したりはしない。

【がんの予後のウイグル医学医院】 白血病はだめ、消化器系のがんは治療効果が高い。ロプ県にある。リンパ腫瘍でカシュガルから、16日入院、この病院はラジオの宣伝で知った。食道がん、コルラから、宣伝で知った、ここでは撮影、病理的な検査はしない、自分でその結果を持ってくる。体質にたいして、薬を処方、イマームアシムでもらったご飯は食べる。蛇の毒を治療に使う、父は中学の教師でこれをはじめ、今継いでいる、自分で治療をはじめた、医専を卒業した学生が働いている。子宮ガン、肺がん、食道がんの患者がいる。2000-3000元のくすり、父が作った、(西欧医学でもなぜこの薬が効くのかはわからない)。毒の水銀をにわとりに食べさせる、その肉を患者に食べさせる、毒に対しては毒をもって。最近アクスで開業、コルラでも予定、診断の問題、新しい検査機械、治療の器械が不足している。光をあてる、動脈に入れる、カテーテル、今は注射剤に薬を変えている、早期発見が重要、西欧薬は副作用が

多い、自分の薬は副作用がない、水銀を 50 日くらい食べさせた鶏の肉は白っぽい。